

ハイブリッドオペラ 創作オペラと電子音響の融合

「THÉSÉE - テセウス」

全4幕 コンサート形式 世界初演

作曲：成田 和子

台本：ジャック・スリュ

映像：アラン・ヴィローム

ミノス / 殺し屋：井上 敏典

ヨハネ：井原 秀人

アリアドネ：松下 悦子

ミノタウロス / アシスタント：ヴォーカロイド

ピアノ：大谷 正和

2025年9月13日（土）

14時開演（13時30分開場）

頌啓館ホール（同志社女子大学 京田辺キャンパス内）

入場無料 / Admission free 要予約 / Reservation required

アクセス / Access : <https://www.dwc.doshisha.ac.jp/access>



〈4 幕オペラ「THÉSÉE- テセウス」のものがたりと解説〉

地球のどこかの科学都市で、科学者チームが任務を完了したところから第1幕が始まります。その任務とは、世界の仔細な調査の目録である台帳の作成です。冒頭は、科学都市の総監ミノスが、台帳が完成したということをスポンサー（正体不明）に電話で伝える場面です。会話が終わるや否やエンジニアのヨハネが現れ、台帳の欠陥が発見されたと言えます。一人の人間のデータが欠けており、それはギリシャに住むアリアドネという女性のデータだと言うのです。総監ミノスは、どんなことをしてでも彼女を探し出し科学都市に連れてくるように命じます。データを貪るメインフレームは「ミノタウロス」と呼ばれており、この世の台帳を管理する巨人なのです。第2幕では、誘拐されて連れてこられたアリアドネに対してヨハネは、台帳を完成するための検査を受ければ解放されると約束します。第3幕では、アリアドネが生体情報学的な検査に耐えられないこと知ったヨハネが、彼女を救うためにメインフレームのプラグを抜くことを決意します。ミノタウロスの死を導くというクライマックスが描かれ、ヨハネとアリアドネは科学都市を脱出します。最後の第4幕は、アリアドネを殺すようにミノスが差し向けた殺し屋に追われる身となった二人が身を寄せるエーゲ海の小島が舞台です。逃亡に疲れたヨハネはアリアドネを置き去りにしようとします。続く場面では、アリアドネではなくヨハネを殺めた殺し屋がアリアドネのもとに現れますが、彼女に一目惚れてしまい、自分と逃げようと誘う二重唱で幕が閉じられます。お気づきのように、登場人物にはテセウスの名を冠した者はいません。テセウスはギリシャ神話に登場するアテネの建国王のミノタウロスを殺した王の名前です。オリジナルの台本はフランス人作家のジャック・スリュによるフランス語ですが、今回は橋口久子翻訳による日本語ヴァージョンをコンサート形式で上演します。舞台のスクリーンに投影される映像は、写真家アラン・ヴィロームが彼のコレクションの中から各々の場面を象徴するために選んだ写真です。〈配役〉ミノス／殺し屋：井上敏典、ヨハネ：井原秀人、アリアドネ：松下悦子、ミノタウロス／アシスタント：ヴォーカロイド

〈プロフィール〉

井上 敏典 / Toshinori Inoue

大阪音楽大学、同大学院修了。文化庁芸術家在外研修員としてケルン音楽大学（ドイツ）へ留学。オペラ「夕鶴」の運ず役、関西歌劇団入団後オペラ「賢い女」王様役にてデビュー。その後、「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「椿姫」「仮面舞踏会」「イル・トロヴァトーレ」「カルメン」「トスカ」「ラ・ボエーム」「道化師」「蝶々夫人」他、多数のオペラや、「小栗栖の長兵衛」「ベルリンの月」等の創作オペラにも主役として出演。2021年アクリエひめじオープニング公演オペラ「千姫」の制作に携わると同時に宮本武蔵役で出演。パッハ、ヘンデル、モーツァルト、シューベルト、フォーレ、デュフレ他の宗教曲やベートーヴェン「第9」等のソリストとしても活躍。日本歌曲やドイツ歌曲のリサイタルでも、テキストと音声の探求と表現、豊かな声質に高い評価を得る。なにわ芸術祭新人賞。新人音楽コンクール大賞・文部大臣奨励賞。姫路市芸術文化賞。兵庫県新進芸術家奨励賞。大阪文化祭奨励賞。他、多数受賞。同志社女子大学音楽学科特任教授、関西芸術振興会・関西歌劇団理事、日本声楽発声学会会員。



井原 秀人 / Hideto Ihara

東京文化会館での黛敏郎：オペラ「金閣寺」主演・溝口の成功により、出光音楽賞を受賞。大阪での作曲家追悼公演は、ABC国際音楽賞、三菱信託音楽賞、大阪舞台芸術賞を受賞した。三善晃：オペラ「遠い帆」、一柳慧：オペラ「愛の白夜」（世界初演）、一柳慧：オペラ「光」（世界初演）、ベルク：オペラ「ヴォツェック」にて主演を務め、絶賛を博す。オペラのレパートリーは幅広い。一方、コンサート歌手としても活躍。作曲家ペンデレツキ自身の指揮による「7つのエルサレムの門」、チョン・ミンファン指揮ベートーヴェン「第九」、ヴェルディ「レクイエム」のソリストのほか、新国立劇場、びわ湖ホール、新日本フィル、東響、読響、日フィル等の自主公演に多数登場。これまでに出光音楽賞、村松賞大賞、兵庫県芸術奨励賞、神戸市文化奨励賞、神戸灘ライオンズクラブ音楽賞、松方ホール音楽賞大賞、ブルーメール賞、ABC音楽賞・クリスタル賞、大阪舞台芸術奨励賞、井植文化賞等を受賞。元同志社女子大学教授。



松下 悦子 / Etsuko Matsushita

ソプラノ。同志社女子大学音楽学科声楽専攻卒業後、ドイツ・カールスルーエ音楽大学大学院声楽学科修了。第63回日本音楽コンクール声楽部門第2位入賞をはじめ国内外のコンクールに多数入賞。その安定した歌唱力と豊かな表現力には定評があり、大阪文化祭本賞、クリティッククラブ奨励賞、藤堂音楽褒賞など、過去に開催したリサイタルに贈られている。音楽CD出版では、N&F社のmolt fineから今までにない斬新な企画の近代ドイツ歌曲集「ein Tag めぐる時めぐる思い」（2008）や、ナミ・レコード社ライヴノーツからは「木下牧子歌曲集 太陽は空の中心にかかる」（2017）をリリースしている。現在、同志社女子大学教授。日本シューベルト協会理事。



大谷 正和 / Masakazu Ootani

京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専攻卒業。同大学院音楽研究科器楽専攻修了。首席卒業、修了に伴い、音楽学部賞、大学院賞を受賞。フランス国立リヨン高等音楽院修了。第3回日本現代音楽ピアノコンクール優勝。1992年のリサイタルの成果に対して、第2回青山音楽賞を受賞。現代曲を含む独自のプログラムでリサイタルを行う他、これまでに第274回大阪フィルハーモニー交響楽団定期演奏会にてメシアン《トゥーランガリラ交響曲》を共演した他、京都市交響楽団、京都フィルハーモニー室内合奏団、広島交響楽団などのオーケストラと共演。また歌曲伴奏、室内楽の分野でも幅広い活動を行っている。第43回藤堂音楽賞受賞。現在、京都女子大学教授。日本シヨパン協会関西支部理事。日本ピアノ教育連盟関西支部運営委員。日本演奏連盟、日本音楽表現学会各会員。



成田 和子 / Kazuko Narita

作曲、音楽理論、電子音響音楽をフランスのパリ国立高等音楽院で学ぶ。マックス・ドイツェ国際作曲コンクール、クセナキス国際作曲コンクール、第17回神奈川芸術祭合唱作曲コンクール、第27回ブルジュ電子音楽と音響芸術国際コンクールに入賞、第27回武井賞、第12回文化庁舞台芸術創作奨励賞を受賞。器楽、声楽や管弦楽、オペラなどの作品のほか、西洋楽器と邦楽や雅楽の楽器が融合する作品、電子音響音楽作品を作曲し、内外のフェスティバルやコンサートで上演されている。2014年に初演されたオペラ「YUMÉ」（フランス政府委嘱作品）は、能の演目である観阿弥の「松風」をもとに日本と西洋の文化の融合を意識した作品であり、パリをはじめフランス国内各地で上演され話題を呼んだ。金原礼子企画コンサートでは、ラシーヌ作《フェードル》より「フェードルの受難」および、コルネイユ作の悲喜劇《ル・シッド》より「ル・シッド」の音楽を担当している。近年、声楽や器楽の演奏とコンピュータが融合するするハイブリッドな作品を創作している、同志社女子大学学芸学部音楽学科特任教授。



問い合わせ / Contact : knarita@dwc.doshisha.ac.jp